

祝辞

自然界に春の息吹が感じられる今日のよき日に、崇城大学の大学院修了証書ならびに学部卒業証書を受領された卒業生の皆さん、卒業おめでとう。心から敬意とお祝いを申し上げます。

論文の審査、および厳しい最終試験に合格し、晴れて「博士」ならびに「修士」の学位を得られた大学院修了生の皆さん。皆さんの榮譽に対し、心からお祝い申し上げます。皆さんが、「博士」「修士」の学位を修得されたことは、科学分野、芸術分野に、一生懸命取り組んでこられた研鑽のたまものであり、本学の誇りでもあります。

また、本日、蛍雪の功なり、栄えある「学士」の卒業証書を得られた学部卒業生の皆さん。皆さんは学業のみならず、各種プロジェクトやクラブ活動、留学やボランティアなど様々なアクティビティにも積極的に挑戦し、驚くほどの人間力を身に付けてくれました。その姿は、四年或いは六年前の入学時に比べ、本当に逞しくなったと誇らしく思っています。卒業生の皆さんおめでとう。衷心よりお祝いを申し上げます。

そして、保護者の皆様。お子様のご卒業、誠におめでとうございませう。

親元を離れ、身の回り一切を自分で律しながら学生生活を送ったお子様が多く、ご心労もあったことと思いますが、逞しく自立した姿をご覧になって、さぞかし安堵されていることと思います。重ねて、お祝い申し上げます。

ところで、卒業生の皆さんがこれから船出しようとする社会は、政府が「ソサイエティー5.0」社会と呼んでいるように、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)が高度に融合した、いわゆる、近未来的社会を迎えようとしています。即ち、IOT(Internet of Things)や人工知能 AI の普及と共に、今後、現実拡張や人間拡張が急速に進展し、便利で快適な生活が実現できると言われています。ただ、一昨年までは、コロナ禍において半導体の供給が追いつかず、産業の停滞が問題になっておりましたが、世界トップの半導体メーカー、TSMC の熊本進出により、今後、一気に近代化が進むと予測されています。例えば、産業界では、あらゆる分野が自動化され、安全性、生産性の向上と共に創造性を重視した職場になると言われていますし、また、モビリティは自動操縦のドローンや空飛ぶ自動車が主流になるかもしれません。そして、通貨はキャッシュレスを経てデジタル・マネーとなり、さらに、モノの所有がシェアへと変化するなど、社会の価値観そのものが大きく変わるのではないかとされています。まさに、well-being を目指した、新時代の到来であり、社会は今後急速に大変革を遂げていくことになると思います。

しかしながら、その一方で、このような華やかな新時代とは異なった負の未来も予測されて

います。それは地球温暖化等による環境問題と開発等による生態系の破壊であります。地球温暖化は、化石燃料消費によるCO₂の蓄積によるものであり、日本各地で毎年多発している集中豪雨のように、自然災害を招く原因ともなっています。さらに、生物の種の絶滅は、恐竜時代の絶滅スピードと同じ、驚異的な速度で進行しているといわれています。また、ロシアやイスラエル、さらにはアメリカによる軍事侵攻のように、蛮行とも言える、最悪の戦争が突然発生するなど、世界平和に対するリスクも急速に増大しつつあります。まさに人類にとって大きな危機が迫りつつあるのです。

残念ながら、このような、様々な難題が横たわっていますが、時代は、それでも未来への道程を確実に前進しながら、しかも短期間で社会変革を遂げて行くことになると思います。

そこで、卒業生の皆さんにお願いしたいことは、人類にとってのより良き未来を築くために、皆さん自身が様々な課題解決に主体的に参画してほしいということでもあります。

今から150年ほど前の江戸時代末期、東アジア各地を植民地化しつつ、日本に開国を迫る西欧列強の外圧のもと、その危機的状況を救ったのは、20才前後の若き維新の志士達でありました。彼らは、西欧各国を回り、西欧の優れている所を学びつつ、当時の人々にとって、想像をはるかに超えた日本社会の近代化を成し遂げ、明治維新を創出したのであります。議会制度や資本主義制度を導入し、国立銀行や様々な産業を創設するなど殖産興業を励行すると、わずかな期間で見事に西欧列強と肩を並べるまでになりました。まさに、何もない、無の中から何かを産み出す力は、若者にしかできないことを、歴史は伝えているのだと思います。

このように、社会の価値観が急速に変質するとき、そのエンジンは常に若者が担ってきました。若者は過去あるいは現状の価値観に染まっていないので、新しい課題に挑戦する変革者として活躍できるのだと思います。卒業生の皆さん。皆さんの積極的な参加を未来社会は求めています。是非、未来課題への取り組みに参画し、豊かで持続可能な平和社会を構築して欲しいと願っています。

それは決して難しいことではありません。皆さん自身が自らの感性と創造性を信じて、一歩前に進むよう心掛ければ良いのです。自分は、何をしたいのか。自分にとって何が大切なのか。自らに問えば、その答えは既に皆さんの心の中にあると思います。早速、それに向かって踏み出してください。それが未来を開く扉であり、皆さん自身の個性や才能でもあります。人生は一度きりしかありません。悔いのない、そして自分に誇れる生き方を歩んで欲しいと願っています。是非ワクワクするような、夢や目的を求め、未来づくりに参画してください。時代が大きく変革を遂げるとき、成功の方程式はありません。未知の領域に挑戦する勇気こそが重要であります。人のためになり、人に感謝される、遣り甲斐のある夢を持つよう心掛けてください。必ずや、素晴らしい未来社会の創成に貢献できると確信しています。

さて、最後になりますが、皆さんは、ここ崇城大学において素晴らしい友人を沢山得ることができたと思います。どうか生涯の友として友情を分かち合っていたいただきたいと願っています。そして、是非本学を訪ねて来てください。教職員一同また皆さんとお会いできる日をお待ちしております。

皆さんのご活躍とご多幸を祈念して祝辞といたします。

令和八年三月二十日

学校法人 君が淵学園
理事長 中山 峰男